



くらしの植物苑だより

稲の生く道を行く

江口 誠一（千葉県立中央博物館）

ちょうど1週間前、千葉市若葉区に「大草谷津田いきものの里」という、自然体験や環境学習の場がオープンしました。谷津とは、台地や丘陵地に樹枝状にのびる小規模な谷で、そこでは湿田が営まれてきました。現在では、数こそ少なくなりましたが、昔ながらの景観をとどめている所では、周辺の斜面林を含め生物相が豊富です。

歴博と同じ、千葉県内にある県立中央博物館では、「農村景観を歩く」と称した講座・観察会を毎年催しています。明治期と現在の地図を見比べながら、県内の谷津田を含めた農村地域を歩いて、地形や人々の生活の移り変わりを肌で感じてもらっています。

国土地理院などで発行されている地図には、今現地に行く目に見えるものが表現されています。しかし、高度経済成長期以降に大規模な開発を受けたり、地形が大きく改変されるなどの、時代のフルイを潜り抜けた、かつての景観の一部もそこに含まれています。

それを教えてくれる過去の地図は、明治10年代に旧陸軍参謀本部が作成した迅速測図原図と、それを基に刊行された迅速測図です。ともに2万分の1縮尺で、土地利用の表記法が、前者はフランス式の彩色と漢字で、後者はドイツ式の一色線号式図式で記号化されています。現地では、迅速測図原図（フランス式）を参考に、迅速測図の刊行図（ドイツ式）へ着色作業を施した地図を活用しています。

以下は、数年前に八街市内の「小谷流^{こやる}」の谷津を、源流部に位置する下総台地上の「沖」地区から歩いた時のことです。

「沖」地区は台地が大半を占め、道路や防風林によって方形に土地区画されています。この様子は、明治期の迅速測図には見受けられず、それ以後の昭和初期の区画整理によるものと考えられます。この開墾の大規模さは、方形の区画と明らかに斜交する、東西からの直線道路、東金御成街道が中央部で消され、両端が付け替えられている事からも想像できます。

それを担った方々の墓地近くで、掘り起こしたラッカセイを、ポッチに積んでいる夫婦に出会えました。防風林もスギではなく、昔はマツで、今でも土の中からその根っこが出てくる、と畠のすみに転がっている切り株を指しながら語ってくれました。迅速測図原図での「沖」は牧場なのですが、周辺は松林に被われています。この牧場は近世の小間子^{おまご}牧からの流れと考えられ、現在も畠の間に残る野馬土手跡が名残をとどめています。

台地上は平らでなく、所々に窪んだ地形が見られます。そのひとつ「中沖」地区の窪みは、迅速測図によると水溜まりのようになっており、これを源流部として谷筋沿いに下ると、「小谷流」の谷津につながります。

この谷頭部にあたる区域は、現在畠となって水田こそ見られません。しかし大雨が降ると、日ごろは乾いている中央溝に雨水が流れ込み、溢れ出すこともあるそうです。それもあってか、窪みに沿って広がる畠の土色も、少し水分を帯びて黒みが掛かっています。地主の方によると、ラッカセイの出来もその部分がより良いとのこと。

下流へ向かう途中、方形区画の道が谷筋を横切るのので、谷の横断面がいくつか見られます。その断面の連続をたどりながら進むと、谷底も平らになり、湧水のある谷津へ近づいてきます。「小谷流」の谷津は、明治期に周囲が松林である以外、現在も谷底に水田域が延び、地図上では大きく変化しません。集落も、左岸の永福寺あたりから分布することで、ほとんど変わりません。

しかし、昭和50年代の圃場整備事業によって、耕作が容易になった場所と、整備区域外の谷奥部とでは、現在の様子に違いがあります。前者では、作業も機械化され、生産調整も行ないながら水田が営まれています。後者は、苦勞してまで耕作することなく、放棄水田となってしまいました。近辺とは異なった生物相が観察されます。観察会で試みたのですが、目を閉じながら耳を澄ますと、下流とは違った音も聞こえてきました。

景観は、地域の自然と、それを利用した人間の営みの、相互作用により生じたものです。特に農村は、希薄化しつつある自然と人間のかかわりを、見直す場として重要です。景観から導かれた地域認識は、環境問題を考えるのに良い材料となることでしょう。台地上の水源地から、水の流れに沿って歩き、稲が生きる谷津田へ向う。その過程で見たものは、これからも稲と共に生きていくであろう地域の姿です。

次回予告

○第92回くらしの植物苑観察会

7月22日(土)「植物をめぐる禁忌」 篠原 徹(本館研究部民俗研究系)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料

○第8回日本の植物文化を語る

6月24日(土)「近世都市江戸の環境史ー水と花とゴミー」 谷川 章雄(早稲田大学大学院)

13:30~15:30(予定) 本館講堂 申込不要 聴講無料